




所属・職位	医学部看護学科実践看護学講座老年看護領域・教授	
氏名	吉岩 あおい (Yoshiiwa Aoi)	
取得学位	博士 (医学)、大阪大学、1999年12月	
SDGs目標	 	

研究分野	老年医学
研究キーワード	アルツハイマー病、レビー小体型認知症、骨粗鬆症、生活習慣病
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アルツハイマー病と生活習慣病の関連に関する研究 ・レビー小体型認知症 糖尿病、高血圧症などが認知症と関連があるとの研究が進み、注目されている。当院総合診療科・総合内科は生活習慣病を抱える患者の受診も多く、認知症との併存も認めるため、生活習慣病が認知症の罹患率を上げるのか、発症や進行に関与しているのかを探求する。 ・認知症と骨代謝 ・認知症とビタミンD 近年、骨粗鬆症に対し、ビタミンD (25(OH)D3) の測定が可能となった。またアルツハイマー病では、重症になるほど25(OH)D3濃度が低下することが明らかになっている。当科では骨粗鬆症の外来も行っており、骨密度、骨代謝マーカー、ビタミンD測定により、認知症との関連を研究している。 ・認知症とH.pyloriの関連に関する関連の研究 ・軽度認知障害 (Mild Cognitive Impairment: MCI) の発症予防に関する研究 豊後高田市でサロンに通所する高齢者にフレイル、嗅覚、あたまの健康チェックなどのスクリーニング検査を行い、MCIと診断された症例は、運動、料理、座学などを行い定期的に神経心理テストなどでフォローするというまちぐるみ、多職種協働の研究を行っている。
研究業績・アピールポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ α 1-Antichymotrypsin as a Risk Modifier for Late-Onset Alzheimer's disease in Japanese apolipoprotein E ϵ 4 allele carriers. nn. Neurol. 42(1):115-7, 1997 ・ 認知症の治療をいつまで続けるかー抗認知症薬をできる限り続けるべきであるー 日本老年精神医学会30(Suppl.I),90-98,2019 ・ 塩酸ドネペジルが著効したレビー小体型痴呆. 臨床と研究 80(10): 1917-1918, 2003 ・ もの忘れ外来でみられた認知症と「生活の様子確認票」によるアルツハイマー病の重症度評価について. Geriatric Medicine 50(3): 349-357, 2012 ・ 骨粗鬆症治療薬デノスマブの疼痛軽減効果. 日本病院総合診療医学会誌14(2)140-146, 2017 ・ 「認知症の人が安心して暮らせるまちづくりー認知症の早期スクリーニングー」 現在進行中の多職種協働によるスタディである。